

第47回フローインジェクション分析講演会報告

大阪府立大学大学院工学研究科 八尾俊男

本講演会は平成18年12月1日(金)に猿沢荘(奈良市池之町3)で開催された。1年前にお引き受けした当初は、大阪府立大学中百舌鳥キャンパスで開催する予定にしていたが、世界文化遺産ともなった古の都、奈良公園の晩秋を是非散策して戴きたいと思い、奈良公園内で開催することにした。会場の都合でポスター発表なしの全て口頭発表とし、招待講演を例年より増やしてまとまったお話をうかがえるように企画した。最終的には一般講演が12件、招待講演として、平井義彦先生(阪府大院工・電子物理)、長岡勉先生(阪府大・先端セ)、佐藤生男先生(神奈川工大)、石井幹太先生(静岡福祉大)、小熊幸一先生(千葉大工)の5人の先生方に御願ひした。参加者は65名であった。



写真. 猿沢池と興福寺の五重塔(会場付近から撮影)

講演会は、主催者として八尾(阪府大院工)の挨拶の後、午前9時から始まった。4件の一般講演の後、平井先生から「ナノインプリントによるマイクロ・ナノ構造の成型」と題して、マイクロ・ナノチップの今後の展開について示唆に富むお話をうかがえ、FIAをはじめフロー分析への応用に新しい方向性が見える思いがした。続いて、長岡先生から「金ナノ粒子膜を用いる電流型検出器の開発」と佐藤先生から「フローインジェクションカロリメトリーの展開」と題して、招待講演があった。両先生の最も得意とされる分野の興味あるお話をうかがうことができた。

午後は4件の一般講演の後、石井先生から「新領域におけるFIAシステムの開発」と題して招待講演があり、新領域(福祉科学など)へのFIAシステムの展開について示唆に富む講演があった。コーヒープレイクの後、小熊先生から「フローインジェクション分析におけるオンラインカラム分離の応用」と題して招待講演があり、イオン交換樹脂や逆相クロマト用樹脂カラムによるオンラインカラム分離に基づいた実用的なFIAシステムについての講演があった。その後、4件の一般講演があり、講演終了後、2006年度のフローインジェクション分析各賞の授賞式が行わ

れた。

2006年度のフローインジェクション分析学術賞が石井幹太先生(業績「新領域における先駆的フローインジェクション分析システムの開発」)と佐藤生男先生(業績「固定化生体触媒を用いた高感度フローインジェクション分析法の開発」)に贈られた。また、フローインジェクション分析技術開発賞は倉橋技研の倉橋健一氏(業績「フローインジェクション分析用周辺機器の開発」)に贈られた。フローインジェクション分析論文賞は、善木道雄先生他(岡山理科大、論文名「Clean analytical methodology for the determination of lead with Arsenazo III by cyclic flow-injection analysis」M. Zenki, K. Minamisawa, and T. Yokoyama, *Talanta*, **68**, 281 (2005))とO. Chailapakul et al (Chulalongkorn University、論文名「Cost-effective flow cell for the determination of Malachite Green and Leucomalachite Green at a boron-doped diamond thin-film electrode」P. Ngamukot, T. Charoenpaks, O. Chailapakul, S. Motomizu, and S. Chuanuwatanakul, *Anal. Sci.*, **22**, 111 (2006))、平川紘司氏他(九州大学工学研究院、論文名「Electrochemical immunoassay for vitellogenin based on sequential injection using antigen-immobilized magnetic microbeads」K. Hirakawa, M. Katayama, N. Soh, and T. Imato, *Anal. Sci.*, **22**, 81 (2006))に贈られた。

その後、懇親会が2階の別の会場で開催され、本研究懇談会委員長の愛知工業大学・酒井忠雄先生のご挨拶、前委員長岡山大学・本水昌二先生のご乾杯の御発声で開宴された。しばらくの歓談の後、各受賞者にスピーチを御願ひした。懇親会の後半は、院生の司会のもと、恒例になったビンゴゲームで奈良のお土産品と大和の地酒の会推奨の日本酒の獲得を競って頂いた。ちなみに1位は善木先生(岡山理大)であった。35位まで日本酒を獲得できるようにしたので、大変喜んで頂いた。3位までのウイナーには喜びのスピーチを頂き、日本酒獲得者の全員に一言ずつ喜びのコメントを頂いた。予定していた2時間の懇親会は、いつもながら和気藹々と時間の経つのも早く、名残惜しく感じられた。

今回、奈良で初めてFIA講演会を開催するにあたり、人手と財政的な不足から少々不安を感じていたが、多くの企業の方から展示会や広告掲載にご協力戴きましたこと感謝申し上げます。また、日本分析化学会近畿支部から協賛を戴いたこと、奈良コンベンションビューローから多大なご協力戴いたこと、紙面をお借りして御礼申し上げます。